

免疫学的検査

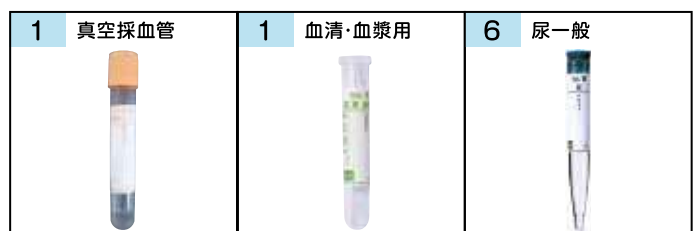
血漿蛋白

コード	検査項目 JLAC10コード	検体量(mL)	容器 (No.)	保存	所要 日数	実施料 判断区分	検査方法	基準値	備考	異常を示す主な疾患
3531	免疫電気泳動 (抗ヒト全血清) 5A135-0000-023-081	血清 0.2	1	冷蔵	5~7	170 免疫	免疫電気泳動法			【高値】 単一クローン性:悪性M蛋白血症 多発性骨髄腫 原発性マクログロブリン血症 *多クローン性悪性リンパ腫 悪性腫瘍・慢性炎症 【低値】 免疫不全症 ネフローゼ症候群
4241	免疫電気泳動 (特異抗血清) 5A136-0000-023-086	血清 0.4	1	冷蔵	5~7	218 免疫	免疫固定法			
3561	免疫電気泳動(尿) 5A135-0000-001-086	尿 10	6	冷蔵	5~7	201 免疫	免疫固定法			【高値】 多発性骨髄腫・骨肉腫 マクログロブリン血症 原発性アミロイドーシス 慢性リンパ性白血病
3534	BJ蛋白同定 5A145-0000-001-086	尿 5	6	冷蔵	4~6	201 免疫	免疫固定法			【高値】 多発性骨髄腫・骨肉腫 マクログロブリン血症 原発性アミロイドーシス 慢性リンパ性白血病
2933	遊離L鎖κ/λ比 (免疫グロブリン遊離 L鎖κ/λ比) 5A141-0000-023-062	血清 0.4	1	冷蔵	3~4	388 免疫	LA	κ鎖: 3.3~19.4 λ鎖: 5.7~26.3 mg/L κ/λ比: 0.26~1.65		【異常】 多発性骨髄腫・肝疾患・SLE 原発性ALアミロイドーシス 原発性マクログロブリン血症
3535	IgG 5A010-0000-023-061	血清 0.5	1	冷蔵	1~3	38 免疫	TIA	870~1700 mg/dL		【高値】 慢性肝炎・肝硬化・肝癌 感染症(急性・慢性)・IgG型骨髄腫 【低値】 原発性免疫不全症候群 リンパ増殖性疾患・ネフローゼ症候群・低栄養
3536	IgA 5A015-0000-023-061	血清 0.5	1	冷蔵	1~3	38 免疫	TIA	110~410 mg/dL		【高値】 肝炎・肝硬化・肝癌 膠原病・IgA腎症・骨髄腫 【低値】 原発性免疫不全症候群 ネフローゼ症候群
3537	IgM 5A020-0000-023-061	血清 0.5	1	冷蔵	1~3	38 免疫	TIA	男 33~190 女 46~260 mg/dL		【高値】 肝炎(急性・慢性)・原発性胆汁性肝硬化 原発性マクログロブリン血症 【低値】 原発性免疫不全症候群 骨髄腫・蛋白漏出性胃腸症
5023	非特異的IgE 5A090-0000-023-023	血清 0.1	1	冷蔵	2~3	100 免疫	FEIA	170.0以下 IU/mL		【高値】 アレルギー性疾患・高IgE血症・寄生虫症 膠原病・骨髄腫・IgE以外のMタンパク産生多発性骨髄腫 【低値】 サルコイドーシス 原発性・先天性免疫不全症
3574	プレアルブミン (トランスサイレチン) 5C010-0000-023-061	血清 0.5	1	冷蔵	3~5	104 免疫	TIA	22.0~40.0 mg/dL		【高値】 ネフローゼ症候群 急性肝炎回復期・妊娠後期 【低値】 肝実質障害・炎症性疾患 感染症・悪性腫瘍・ステロイド投与
3516	CRP(定量) 5C070-0000-023-062	血清 0.5	1	冷蔵	1~2	16 免疫	LA	0.30以下 mg/dL		【高値】 炎症性疾患・心筋梗塞 感染症・悪性腫瘍 自己免疫性疾患
2396	高感度CRP	血清 0.6	1	冷蔵	3~5		ラテックス 凝集比濁法	0.14以下 mg/dL		【高値】 動脈硬化症・血栓症 クラミジアニューモニク感染症 炎症性疾患
3540	α ₁ -アンチトリプシン 5C020-0000-023-063	血清 0.4	1	冷蔵	3~5	80 血液	ネフェロメトリー	94~150 mg/dL		【高値】 急性・慢性炎症性疾患 悪性腫瘍・自己免疫性疾患 【低値】 α ₁ -AT欠損症・ネフローゼ症候群 肝障害・蛋白漏出性胃腸症
5079	α ₁ -ミクログロブリン	血清 0.3	1	冷蔵	1~3	132 免疫	LA	男 11.0~26.0 女 10.0~21.0 mg/L		【高値】 糸球体腎炎(急性・慢性) ネフローゼ症候群・腎不全 IgA型骨髄腫 【低値】 劇症肝炎・非代償性肝硬化
9442	5C015-0000-023-062 5C015-0000-001-062	尿 1	6	冷蔵	1~3	132 免疫		男 10.5以下 女 6.5以下 mg/L		【高値】 腎糸球体障害・腎尿管障害 【低値】 劇症肝炎・肝切除・肝硬化

※免疫電気泳動法(抗ヒト全血清)及び免疫電気泳動法(特異抗血清)については、同一検体につき一回に限り算定する。同一検体について免疫電気泳動法(抗ヒト全血清)及び免疫電気泳動法(特異抗血清)を併せて行った場合は、主たる検査の所定点数のみを算定する。免疫電気泳動法(特異抗血清)は、免疫固定法により実施した場合にも算定できる。

※免疫グロブリンL鎖κ/λ比はネフェロメトリー法により、高免疫グロブリン血症の鑑別のために測定した場合に算定できる。

免疫グロブリンL鎖κ/λ比と免疫電気泳動法(抗ヒト全血清)又は免疫電気泳動法(特異抗血清)を同時に実施した場合は、主たるもののみ算定する。



免疫学的検査

血漿蛋白

コード	検査項目 JLAC10コード	検体量(mL)	容器 (No.)	保存	所要 日数	実施料 判断区分	検査方法	基準値	備考	異常を示す主な疾患
3579	α₁-酸性糖蛋白 5C025-0000-023-063	血清 0.5	1	冷蔵	3~4		ネフェロトリー	42~93 mg/dL		【高値】 悪性腫瘍・感染症 自己免疫疾患・炎症性疾患 【低値】 肝硬変・ネフローゼ症候群
3541	α₂-マクログロブリン 5C035-0000-023-063	血清 0.4	1	冷蔵	3~5	138 血液	ネフェロトリー	男 100~200 女 130~250 mg/dL		【高値】 慢性腎炎・糖尿病性腎症 ネフローゼ症候群・慢性肝炎・肝硬変 【低値】 急性肺炎増悪期 潰瘍性大腸炎・多発性骨髄腫
3542	セルロプラスミン 5C045-0000-023-063	血清 0.4	1	冷蔵	3~5	90 免疫	ネフェロトリー	21~37 mg/dL		【高値】 急性・慢性炎症・膠原病 ネフローゼ症候群・悪性腫瘍 【低値】 ケイルソン病・肝硬変・肝癌 蛋白漏出性腎臓症・ネフローゼ症候群
3543	トランスフェリン 5C060-0000-023-061 5C060-0000-041-061	血清 0.5	1	冷蔵	1~3	60 免疫	ネフェロトリー	200~320 mg/dL		【高値】 鉄欠乏性貧血・真性多血症 急性肝炎の一部・妊娠 【低値】 肝硬変・急性炎症疾患 再生不良性貧血・無トランスフェリン血症
3806		髄液 1.0			35					
3816	トランスフェリン(尿) 5C060-0000-001-062	尿 1	6	冷蔵	3~5	101 尿・便	LA	1.00以下 mg/g・cr		【高値】 腎不全・糖尿病性腎症 ネフローゼ症候群
3828	KL-6 (シアル化糖鎖抗原) 5C210-0000-023-062	血清 0.2	1	冷蔵	1~3	111 生化I	LTIA	500.0未満 U/mL		【高値】 間質性肺炎 過敏性肺炎 一部の肺癌
2468	SP-A (サーファクタント蛋白A) 3F250-0000-023-052	血清 0.3	1	冷蔵	3~5	130 生化I	CLEIA	43.8未満 ng/mL		【高値】 特発性間質性肺炎 肺線維症・膠原病・過敏性肺炎
3829	SP-D (サーファクタント蛋白D) 3F253-0000-023-052	血清 0.5	1	冷蔵	3~5	136 生化I	CLEIA	110.0未満 ng/mL		【高値】 特発性間質性肺炎 膠原病性間質性肺炎
3552	パイログロブリン 5A155-0000-023-920	血清 1.0	1	凍結	2~4		加温法	(-)		【高値】 多発性骨髄腫・悪性リンパ腫 原発性マクログロブリン血症
3548	ハプトグロビン 5C040-0000-023-063	血清 0.5	1	冷蔵	3~5	132 免疫	ネフェロトリー	1-1型 83.0~209.0 2-1型 66.0~218.0 2-2型 25.0~176.0 mg/dL		【高値】 炎症性疾患・悪性腫瘍 心筋梗塞 【低値】 溶血性貧血・肝疾患 発作性夜間血色素尿症
3551	クリオグロブリン 5A160-0000-023-920	血清 1.0	1	凍結	5~7	42 免疫	寒冷沈殿法 (Wart法)	(-)	血清分離までは37°Cで、血清 分離後は凍結して下さい。	【高値】 原発性マクログロブリン血症 クリオグロブリン血症 多発性骨髄腫・感染症
9226	ヘモベキシン 5C055-0000-023-063	血清 0.4	1	冷蔵	3~4	180 免疫	ネフェロトリー	63~109 mg/dL		【高値】 心筋梗塞・自己免疫疾患 悪性腫瘍・炎症性疾患・感染症 【低値】 肝機能障害・ネフローゼ症候群 溶血性貧血
9044	β₂-ミクログロブリン (β ₂ -m) 5C065-0000-023-062 5C065-0000-001-062	血清 0.3	1	冷蔵	1~3	101 免疫	LA	0.7~2.2 mg/L		* 血:正常/尿:高値 尿細管機能障害 * 血:高値/尿:正常 腎糸球体濾過機能低下・肝炎 肝硬変・悪性腫瘍・自己免疫疾患 * 血:高値/尿:高値 慢性腎不全・尿毒症 糖尿病性腎症・悪性腫瘍・肝疾患
9045		尿 1	6	冷蔵	1~3	101 免疫		17~328 μg/L		
9356	P-Ⅲ-P 5C130-0000-023-006	血清 0.4	1	冷蔵	4~6	136 生化I	IRMA	0.3~0.8 U/mL		【高値】 急性肝炎・慢性活動性肝炎 原発性胆汁性肝硬変 アルコール性肝障害
9133	心室筋ミオシン軽鎖I 5C092-0000-023-023	血清 0.5	1	冷蔵	3~7	184 生化I	EIA	2.5以下 ng/mL		【高値】 心筋梗塞・筋ジストロフィー 筋炎・腎機能低下

出血・凝固検査の包括 1回に採取した血液を用いて3項目以上行った場合
3・4項目: 530点 5項目以上: 722点

※トランスフェリン(尿)、アルブミン定量(尿)及びⅣ型コラーゲン(尿)は、糖尿病又は糖尿病性早期腎症患者であって微量アルブミン尿を疑うもの(糖尿病性第1期又は第2期のものに限る。)に対して行った場合に、3か月に1回に限り算定できる。なお、これらを同時に行った場合は、主たるもののみ算定する。

※SP-D(肺サーファクタント蛋白D)、KL-6及びSP-A(肺サーファクタント蛋白A)のうちいずれか複数を実施した場合は、主たるもののみ算定する。

※心室筋ミオシン軽鎖Iは、同一の患者につき同一日に当該検査を2回以上行った場合は、1回のみ算定する。

免疫学的検査

血漿蛋白

コード	検査項目 JLAC10コード	検体量(mL)	容器 (No.)	保存	所要 日数	実施料 判断区分	検査方法	基準値	備考	異常を示す主な疾患
9018	血清アミロイドA蛋白 (SAA) 5C080-0000-023-062	血清 1.0	1	冷蔵	1~3	47 免疫	LA	3.0以下 mg/L		【高値】ウイルス感染症・真菌感染 悪性腫瘍・自己免疫性疾患 心筋梗塞・糖尿病
9177	ミエリンベースック蛋白 (MBP) 5G410-0000-041-023	髄液 0.3	35	凍結	4~10	570 尿・便	ELISA	102.0以下 pg/mL		【高値】多発性硬化症(MS) 神経ペーチェット増悪期・脳梗塞
2713	オリゴクローナルバンド 5A150-0000-098-236	血清および 髄液 各1.0	1 および 35	冷蔵	11~15	522 尿・便	等電点電気 泳動法	(-)	血清および髄液のペア検体 で提出して下さい。	【陽性】Guillain-Barré症候群 多発性硬化症・細菌性・真菌性髄膜炎 血急性硬化性全脳炎 単純ヘルペス脳炎
9014	フェリチン 5C095-0000-023-062	血清 0.3	1	冷蔵	1~3	105 生化I	LA	男 13~277 女 5~152 ng/mL		【高値】再生不良性貧血・悪性腫瘍 肝疾患・腎不全・心筋梗塞 炎症性疾患 【低値】鉄欠乏性貧血・出血・妊娠
9075	ミオグロビン 5C090-0000-023-062 5C090-0000-001-062	血清 0.5	1	凍結	1~3	135 生化I	LA	65以下 ng/mL		【高値】心筋梗塞 筋ジストロフィー 筋炎・運動・腎機能低下 甲状腺機能低下症
9070		尿 5	6	凍結	1~3			20以下 ng/mL		
2319	H-FABP (ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白) 5C091-0000-023-062	血清 0.5	1	冷蔵	3~5	135 生化I	ラテックス 凝集法	6.2未満 ng/mL		【高値】急性心筋梗塞 心筋障害
2961	L-FABP (尿中L型脂肪酸結合蛋白) 5C100-0000-001-062	部分尿 1	6	凍結	4~5	210 尿・便	LA (ラテックス 凝集比濁法)	8.4以下 μg/g・Cr		【高値】糖尿病性腎症 非糖尿病性慢性糸球体疾患 急性腎障害・尿路感染症
9233	IV型コラーゲン7S 5C135-0000-023-052	血清 0.5	1	冷蔵	3~5	148 生化I	CLEIA	4.4以下 ng/mL		【高値】肝硬変・慢性活動性肝炎 肝臓・アルコール性肝障害・糖尿病
9697	IV型コラーゲン 5C134-0000-023-062 5C134-0000-006-023	血清 0.4	1	冷蔵	3~5	135 生化I	LA (ラテックス 凝集比濁法)	150.0以下 ng/mL		【高値】肝細胞癌・肝硬変 肝炎(急性・慢性)・劇症肝炎 肺線維症・糖尿病性腎症
2351		早朝 第一尿 5	75	冷蔵	4~10	184 尿・便	EIA	随時尿 7,300以下 30歳代 4,000以下 40歳代 4,900以下 μg/g・Cr	尿は容器の2本のライン の間に収まるように添加して ください。	【高値】糖尿病性腎症初期 腎不全
9000	ECP (好酸球塩基性蛋白) 5C180-0000-023-023	血清 0.2	80	凍結	4~10		FEIA	14.9以下 μg/L	採血条件の注意 血液2.5~3.0mLを専用容 器に採取し、転倒混和を5回 繰り返した後、室温で60~1 20分放置します。静置後10 分間過心分離し血清をスピ ツにいれて提出してください。	【高値】気管支喘息 アトピー性疾患 (皮膚炎・結膜炎・鼻炎) 寄生虫疾患
2249	心筋トロポニンT 5C093-0000-023-053	血清 0.3	1	冷蔵	1~3	112 生化I	ECLIA	0.014以下 ng/mL	※ピオチンの干渉 (下段参照)	【高値】急性心筋梗塞・狭心症 心不全

※ピオチンの干渉:5mg/日以上ピオチンを投与している場合、測定結果が偽高値または偽低値になる可能性がありますので、採血は投与後、少なくとも8時間以上経過してから行ってください。

※血清アミロイドA蛋白(SAA)をC反応性蛋白(CRP)定性、C反応性蛋白(CRP)と併せて測定した場合は、主たるもののみを算定する。







※ミエリン塩基性蛋白(MBP)(髄液)、オリゴクローナルバンドは、多発性硬化症の診断の目的で行った場合に算定する。

※心臓由来脂肪酸結合蛋白(H-FABP)は、急性心筋梗塞の診断を目的に用いた場合にのみ算定する。ただし、心臓由来脂肪酸結合蛋白(H-FABP)とミオグロビンを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

※L型脂肪酸結合蛋白(L-FABP)(尿)は、原則として3月に1回に限り算定する。ただし、医学的な必要性からそれ以上算定する場合においては、その詳細な理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。

※IV型コラーゲン(尿)、トランスフェリン(尿)及びアルブミン定量(尿)は、糖尿病又は糖尿病性早期腎症患者であって微量アルブミン尿を疑うもの(糖尿病性腎症第1期又は第2期のものに限る)に対して行った場合に、3月に1回に限り算定できる。なお、これらを同時に測定した場合は、主たるもののみ算定する。

※IV型コラーゲン又はIV型コラーゲン・7Sは、P-III-PまたはMac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体と併せて行った場合には、主たるもののみ算定する。

1	真空採血管	1	血清・血漿用	6	尿一般	35	滅菌スピッツ	75	IV型コラーゲン(尿)	80	ECP
											

免疫学的検査

血漿蛋白

コード	検査項目 JLAC10コード	検体量 (mL)	容器 (No.)	保存	所要 日数	実施料 判断区分	検査方法	基準値	備考	異常を示す主な疾患
2658	lgGサブクラスlgG4 5A058-0000-023-062	血清 0.4	1	冷蔵	3~4	377 免疫	LA	11.0~121.0 mg/dL		【高値】自己免疫性膵炎・ミクリッフ病 【低値】IgGサブクラス欠損症 小脳性運動失調症
3206	lgGサブクラスlgG2 5A056-0000-023-061	血清 0.5	1	冷蔵	3~7	239 免疫	免疫比濁法	239.0~838.0 mg/dL		【高値】高γグロブリン血症・感染症 多発性骨髄腫、MGUS 【低値】 *lgG欠損症~低下症 *lgGサブクラス欠損症(低下症) *lgG1-2-3欠損~低下症・肺炎・発熱 中耳炎、髄膜炎などの反復発症(特にlgG2) 肺炎球菌・髄膜炎菌 インフルエンザ菌による反復感染 *lgG4lgG4欠損~低下症 ataxia telangiectasia
3227	オートタキシン(ATX) 5C240-0000-023-023	血清 0.5	1	冷蔵	3~5	194 生化I	FEIA	(肝線維化進展例) 男性 0.910 女性 1.270 (肝硬変) 男性 1.690 女性 2.120 mg/L		【高値】肝線維化・肝硬変 慢性肝疾患患者) 悪性リンパ腫患者・妊婦
3460	LRG (ロイシンリッチα2 グリコプロテイン) 5C245-0000-023-062	血清 0.5	1	冷蔵	4~5	276 生化I	LA(ラテックス 凝集比濁法)	16.0未満 (炎症性腸疾患の 活動期の判定補助に おける参考基準値) μg/mL	健常人の参考基準値 6.48~13.92μg/mL	【高値】潰瘍性大腸炎 クローン病
2904	M2BPGi (Mac-2結合蛋白糖 鎖修飾異性体) 5C141-0000-023-052	血清 0.5	1	冷蔵	3~6	194 生化I	CLEIA	1.00未満(一)	1.00~3.00未満(1+) 3.00以上(2+)	【高値】慢性肝炎・肝硬変 肝癌
3194	便中カルプロテクチン 5C235-0000-015-023	便1g	34	凍結	4~7	270 尿糞	FEIA	50.0以下 mg/Kg	採取後3日以内にご提出く ださい ・水溶便可 【参考】炎症性腸疾患と機 能性腸疾患とのカットオフ値 :50.0mg/kg 潰瘍性大腸炎の内視鏡的 活動性評価のカットオフ値: 300.0mg/kg	【高値】潰瘍性大腸炎 慢性的な炎症性腸疾患 (潰瘍性大腸炎やクローン病等) ※偽陽性の要因 感染性腸炎・癌・食物アレルギー 非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)や プロトンポンプ阻害剤(PPI)などの薬剤 5歳未満の若年者・肺炎・敗血症 リウマチ性関節炎 歯肉清浄出血中(歯周病)

※lgG2は、原発性免疫不全等を疑う場合に算定する。なお、本検査を算定するに当たっては、その理由及び医学的根拠を診療報酬明細書の適用欄に記載する。
 ※lgG2を測定した場合は、自己抗体検査lgG4、TIA法により測定した場合は、抗カルジオリピン抗体、抗TSHLセプター抗体(TRAb)の所定点数に準じて算定する。
 ※オートタキシンは、慢性肝炎又は肝硬変の患者(疑われる患者を含む。)に対して、肝臓の線維化進展の診断補助を目的に実施した場合に算定する。なお、P-III-P、IV型コラーゲン、IV型コラーゲン・7S、ヒアルロン酸又はMac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
 ※ロイシンリッチα2グリコプロテイン(LRG)を潰瘍性大腸炎又はクローン病の病態把握を目的として測定する場合は、3月に1回を限度として算定できる。ただし、医学的な必要性から、本検査を1月に1回行う場合には、その詳細な理由及び検査結果を診療録及び診療報酬明細書の摘要欄に記載する。
 ※潰瘍性大腸炎又はクローン病の病態把握を目的として、カルプロテクチン(糞便)又は大腸内視鏡検査を同一月中に併せて行った場合は、主たるもののみ算定する。
 ※Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体は、2ステップサンドイッチ法を用いた化学発光酵素免疫測定法により、慢性肝炎又は肝硬変の患者(疑われる患者を含む。)に対して、肝臓の線維化進展の診断補助を目的に実施した場合に算定する。
 ※Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体とP-III-P、IV型コラーゲン、IV型コラーゲン・7S、又はヒアルロン酸を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
 ※カルプロテクチン(便)は、慢性的な炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎やクローン病等)の診断補助を目的として、FEIA法により測定した場合に算定できる。ただし、腸管感染症が否定され、下痢、腹痛や体重減少などの症状が3日以上持続する患者であって、肉眼的血便が認められない患者において、慢性的な炎症性腸疾患が疑われる場合の内視鏡前の補助検査として実施すること。また、その要旨を診療録及び診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
 ※カルプロテクチン(便)は、潰瘍性大腸炎の病態把握を目的として、ELISA法又はFEIA法により測定した場合に、3月に1回を限度として算定できる。ただし、医学的な必要性から、病態把握を目的として、本検査を3月に2回以上行う場合(1月に1回に限る。)には、その詳細な理由及び検査結果を診療録及び診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
 ※慢性的な炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎やクローン病等)の診断補助又は潰瘍性大腸炎の病態把握を目的として、本検査及び大腸内視鏡検査を同一月中に併せて行った場合は、主たるもののみ算定する。